

授業概要

企業を経営していくうえで、自社が製造する製品の原価を把握することは大変重要です。なぜならば、企業は自社製品の販売を常に利益確保の源泉とすることが求められているからです。時には競合製品との間で価格競争をしていかなければならず、その際には勝てる競争か否かの判別が不可欠となります。負ける競争を続けていては企業の体力が弱り、最悪の場合は撤退・消滅も避けられません。こうした観点から、原価計算はその原価把握のために大変重要なことは明らかでしょう。本授業では、実際原価計算を中心としていた原価計算論Ⅰの受講を前提とし、企業を運営していくうえで必要となる原価管理を支えるための標準原価計算、および生産量／販売量と比例的に原価、利益を考察していく直接原価計算を中心に講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス、費目別計算
第 2 回	個別原価計算、部門別個別原価計算
第 3 回	総合原価計算①月初仕掛品がある場合の計算（平均法、先入先出法）
第 4 回	総合原価計算②工程別総合原価計算、仕損と減損
第 5 回	標準原価計算①標準原価計算と実際原価計算
第 6 回	標準原価計算②材料費の差異分析
第 7 回	標準原価計算③労務費の差異分析
第 8 回	標準原価計算④製造間接費の差異分析
第 9 回	直接原価計算①直接原価計算と全部原価計算、固定費と変動費
第 10 回	直接原価計算②短期利益計画と直接原価計算、貢献利益
第 11 回	直接原価計算③CVP 分析
第 12 回	工企業における財務諸表・製造原価報告書
第 13 回	本社工場会計
第 14 回	新しい原価計算：活動基準原価計算、ライフサイクルコストニング
第 15 回	まとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

原価計算の必要性を理解し、日商簿記2級工業簿記レベルのうち、標準原価計算、直接原価計算の範囲において、知識が習得され、ひとつおりの計算、工企業の財務諸表・製造原価報告書の作成ができる。

履修上の注意

講義には例題、練習問題の確認が必要となり、計算機能だけの電卓持参が必要となる。

予習・復習

予習として教科書の次回範囲につき 30 分。復習として教科書と配付プリント等の前回範囲につき 60 分がそれぞれ必要。

評価方法

定期試験が 60%、平常点が 40%で評価。平常点は受講態度、授業関与度合いを中心に評価。

テキスト

※教科書については、開講時別途指示します。

- 参考書：よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記2級工業簿記 Ver.10.0
- 著者名：TAC 株式会社(簿記検定講座)編著
- 出版社名：TAC 株式会社出版事業部
- 出版年：2024 年